

消費者市民社会の一員として

P14-15 商品の選び方で世界は変えられる、持続可能な社会をめざして

学習目標 消費の背景でおきている問題を知り、消費行動が社会にどのような影響を与えるのか考える。

消費者市民社会とは何かを伝え、消費行動が変われば世界も変わることを理解させます。

持続可能な社会のためにできることは何か考えさせます。

《消費者市民社会》

『消費者教育の推進に関する法律』で、消費者市民社会とは「消費者が、個々の消費者の特性及び消費生活の多様性を相互に尊重しつつ、自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会」と定義しています。

消費をめぐる社会問題が多く発生している中、個人の消費欲求を満たすだけでなく、社会・経済・環境に考慮した選択や行動を理解できるような教育が重要です。

《商品の選び方で世界は変えられる》

日用品や食料品が、安い価格で販売されている裏側には安さを生み出すために、正当な対価が生産者や労働者に支払われなかったり、必要以上の森林伐採・農薬汚染による環境破壊が起こっています。商品の選択・購入・消費・廃棄・再生などに関わる行動が、消費者市民社会の実現に向けて大きな役割を果たしています。



消費は投票!

- ・環境に配慮した商品を選択⇒環境保護
- ・地産地消の商品を選択⇒地元企業の応援・雇用が増える

《持続可能な社会をめざして—SDGs—》

SDGs—持続可能な開発目標—

SDGsは「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)の略称で2015年の国連サミットにて可決されました。「誰一人取り残さない」ことを誓い2030年までに17の目標と169のターゲットの達成を目指します。

フェアトレード

発展途上国で産出する原料や商品を適正な価格で継続的に購入し、発展途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「公正な貿易」のことです。フェアトレードは一方的な支援とは違い、フェアトレードの商品を選ぶことで、発展途上国の人々の生活の支えにつながります。フェアトレードの市場が大きくなれば、より多くの人々の生活の質が向上し消費者と生産者のそれぞれが持続的に発展していきます。

消費者市民社会を実現するために行動しよう

消費に対して責任ある行動をとることで、よりよい社会が構築されます。広告などの情報をうのみにせず、商品に関心を持って購入する。商品に問題があった場合や商品の要望や意見は企業に伝える。環境に配慮した生活をするなど、一人一人の行動により持続可能な社会が実現します。

ワンポイント



- 〇 店に行ってフェアトレード商品を探したり、環境・安全に配慮したマークを探してみよう。
- 〇 消費者として私たちにできることを考えてみよう。
- 〇 企業の取り組みについて調べてみよう。

消費者教育を通じて育むべき力

消費者教育の推進に関する基本的な方針では、消費者教育の対象領域を、「消費者市民社会の構築」「生活の管理と契約」「商品等やサービスの安全」「情報とメディア」の4つに分類し育むべき力を示しています。知識の定着を図った上で、実践的な能力を育てていくことが重要です。

地産地消

地域で生産された農林水産物をその地域で消費しようとする取組のことです。

消費者と生産者の交流が図られ、食育の機会としても重要な取組です。

フェアトレードマーク

フェアトレードの認証機関の一つに、国際フェアトレードラベル機構があり、認証基準を満たしているものには認証ラベルが付けられます。対象商品はコーヒー、茶、チョコレート、バナナ、コットンなど途上国での生産が多いものになっています。



国際フェアトレード認証ラベル

食品ロス

食べられるのに捨てられている食品がある一方、世界では栄養不足や飢餓に苦しむ人々があります。食べられる量を考え、買い過ぎない、作り過ぎないなどが、食品ロスの削減につながります。

SDGsの17の目標

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう